

ピアノ	六	講師	萩原英一	
ピアノ	六	同	貫名美名彦	
聲樂	一二	同	長坂好子	
聲樂	一三	同	田中宣子	
ピアノ	一二	同	田中規矩士	
聲樂		教務囑託	柴田陸陸	應召中
體操	二	〃	天野ちよう	
舎監		〃	小木曾佳苗	
生徒課		〃	橋本秀次	
庶務課		事務囑託	井出茂太	
庶務課		同	高橋磯三郎	
圖書課		事務囑託	小林安八	
會計課		同	市川和枝	
樂器掛		同	伊崎清七	

(手書き) (公文書綴 教務課 昭和二十年度) 以上

(六) 終戦後

昭和二十年度終戦後

昭和二十年八月十五日以降の関連文書を日付順に掲載する。

専門學校入學者檢定規程第十一條ニ依ル指定ノ件

専門學校入學者檢定規程第十一條ノ規程ニ依リ左記ノ者ヲ中等學校

卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト指定ス

昭和二十年八月十五日

文部大臣 前田多門

記

陸軍幼年學校第三學年

陸軍經理學校豫科

海軍兵學校豫科及海軍經理學校豫科

海軍甲種飛行豫科練習生(中等學校第三學年修了以上ノ者)

昭和二十年八月十五日ニ於テ右諸學校ニ在學中ノ者ニシテ同日以後ノ修了者

但シ陸海軍諸學校入學前ニ在學セル中等學校ニ於テ右修了者ト同期ニ屬スルモノガ現ニ其ノ中等學校ニ在學スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(手書き) (例規集 教務課 昭和十三年七月)

發專一二八號

昭和二十年八月廿八日

文部次官印

各地方總監

各地方長官

官公私立大學高等專門學校長

教員養成諸學校長

殿

時局ノ變轉ニ伴フ學校教育ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ曩ニ電信ヲ以テ之ガ實施ニ關シ指示シタル次第ノ處右ハ當面ノ緊切ナル問題ナルニ付テハ左記事項ニ御留意ノ上實施上萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段依命通牒ス

記

- 一、學校(女子ノ學校ヲ含ム)ノ授業ノ實施ニ付テハ平常ノ教科教授ニ復原スル様措置スルコト 學生生徒ヲ歸省セシメタル學校ニ在リテモ遅クモ九月中旬ヨリ右ニ依リ授業ヲ開始スルコト
- 二、特別ノ必要アリト認メラルトキハ前項ニ依ラズ當分ノ間授業ヲ休止シ又ハ歸省セシムル等ノ措置ヲ取り得ルコト
- 三、戰災ニ因リ未ダ授業開始ノ目途樹タザル學校ニ在リテモ關係諸機關ト連絡ノ上校舍設備並ニ教職員學徒ノ宿舍ノ調達等ヲ圖リ又ハ授業ノ委託ノ方法ヲ講ズル等成ルベク速ニ平常ノ教科教授ヲ開始スルコトニ努力シ差當ツテハ食糧ノ増産等ノ作業ニ當ラシムル等適宜ノ措置ヲ講ズルコト
- 右ニ關シテハ大學、高等專門學校ニ在リテハ學校集團ニ於テ克リ互助協力ノ實ヲ舉グルコト
- 四、教科用圖書教材等ノ取扱ニ付テハ八月十四日渙發セラレタル詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シテ其ノ取扱ニ付十分ナル注意ヲ拂ヒ其ノ一部ノ授業ノ省略等適宜措置スルコト

備考 農業運輸通信關係等ニ出動中ノ學徒ニ付テハ尙曩ノ電信

指示ノ趣旨ニ依ルコト

(手書き)

發文五二號

昭和二十年十月六日

地方總監殿

直轄學校長殿

公立大學高等專門學校長殿

文部次官印

戰時教育令ノ廢止ニ關スル件

去ル五月二十二日戰時ノ危急ニ際シ畏クモ特別ノ上諭ヲ拜シ御制定相成タル戰時教育令ハ戰時ニ於ケル目標ヲ開明シ教職員及學徒ノ使命ヲ明示以テ戰爭ニ直結スル學校教育ノ體制ヲ確立シ之ニ基キ教育ノ運営ヲナシ來レル處今般戰爭集結ニ鑑ミ同施行規則ト共ニ本六日廢止セラレタルニ付御了知相成度尙學徒ノハ卒業認定ノ取扱ニ付テハ左記事項留意ノ上措置相成度及通牒

記

學徒ニシテ戰時緊切ナル要務ニ挺身シ本令廢止前ニ死亡シ又ハ傷痍ヲ受ケタル者ニシテ未ダ卒業ノ認定ヲ受ケザルモノニ對シテハ戰時教育令第五條及同施行規則第十一條ノ規定ニ依リ從前通り仍其ノ卒業ノ認定ヲ爲シ得ルコト

(例規集 教務課 昭和十三年七月)

(手書き)

(例規集 教務課 昭和十三年七月)

昭和二十年十二月一日

冬季休暇ノ件

現下ノ逼迫セル諸情勢ニ鑑ミ左記ノ期間ヲ冬季休暇ト定メ可然哉冬季休暇左ノ通りトス

記

自昭和二十年十二月十七日

至昭和二十一年壹月末日

(例規集 教務課 昭和十三年七月)

(手書き)

發學八號

昭和二十一年一月十一日

文部次官 大村清 一印

官公私立高等専門學校長  
地 方 長 官 殿

修身、國史、地理科授業停止ニ關スル件

目題ノ件ニ關スル昭和二十年十二月三十一日附連合國軍最高司令部指令別途送付相成タル處之ニ基ク實施要領左記ノ通ナルニ付之カ措置方萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段及依命通牒

記

一、左記諸學科ニ關シテハ代行計畫(連合國軍最高司令部指令別表B参照ノコト)ニ付キ何分ノ指示アル迄夫々授業ヲ即時停止スルコト

1. 國民學校ニ於ケル 國民科修身、國史、地理
2. 青年學校ニ於ケル 修身及公民科、普通學科中國史及地理

ニ關スル事項

3. 中等學校ニ於ケル 國民科修身、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

4. 高等女學校ニ於ケル 國民科修身、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

5. 音樂學校ニ於ケル 國民科修身、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

6. 師範學校ニ於ケル 國民科修身公民、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

同豫科ニ於ケル 國民科修身、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

7. 青年師範學校ニ於ケル 修身、歴史、地理

同豫科ニ於ケル 國民科修身、歴史、地理

(國史ニ關スル部分)

二、第一項以外ノ學校ニシテ修身、國史、地理科及此等ニ類スル諸學科ノ授業ニ際シ國定又ハ檢定教科書ヲ使用セル場合ニ於テハ代行計畫(連合國最高司令部指令別表B参照ノコト)ニ付キ何分ノ指示アル迄當該授業ヲ即時停止スルコト

三、如上ノ授業停止ニ因リ生シタル時間ハ他ノ學科學力補充、體育、食糧増産等各學校ニ於テ適當ト認ムル目的ニ充當スルコト

四、第一項及第二項ニ該當セザル學校ニ於テ修身、國史、地理科及此等ニ類スル諸學科ノ授業ヲ繼續スルコトハ差支ナキモノ場合今後ノ連合國軍最高司令部指令ノ趣旨ニ從フコト  
即チ前記諸學科ノ授業ニ際シテハ軍國主義的及ビ過激國家主義

的イデオロギー注入ノ嫌アル教材及教授法ヲ排除シ科學的學科ニ基キ冷靜ナル批判的教授法ヲ採用スルコト  
 五、今般ノ連合國軍最高司令部指令實施ニ必要ナル法令的措置ハ別途指示致スベキニ付爲念

六、前記一、二、ニ於テ授業停止トナリタル教科科目ノ教科用圖書(國定、檢定ニカ、ル現□教職員、學校、生徒兒童ニ於テ使用中ノ教科書及教師用書、編纂趣意書、掛圖ヲ含ム)ノ回收ニ關シテハ目下關係當局ト打合中ニシテ委細別途通牒スベキモ不取敢各學校ニ於テハ豫メ至急該當圖書ヲ回收シ圖書別ニ適宜取纏メ其ノ送先、日時等ノ指示アルトキ何時ニテモ發送シ得ル如ク確實ナル方法ヲ以テ保管シ且圖書別ニ其ノ冊數、重量等ヲ記載シタル報告書ヲ準備シ置クコト

七、停止セラレタル課程ノ代行教育計畫ニ資スルタメ本省ニ置テ目下教師用指導書ヲ可及的速カニ供給ノ見込ヲ以テ準備中ニシテ又修身、國史、地理ニ關スル暫定的教科書ハ今年ノ新學期ヨリ使用セシムル豫定ヲ以テ進捗中ナルニ付御了知置相成度コト

(和文タイプ。文字不鮮明)(『例規集 教務課 昭和十三年七月』)

昭和二十一年一月十七日

文部省學校教育局專門教育課長(印)

東京音樂學校長 殿

學科課程ニ關スル件

終戦ニ伴ヒ學科課程ニ關シテモ再檢討ノ要有之ニ付別紙工業經營專門學校學科課程御参照ノ上貴校ノ學科課程案御作成ノ上一月三十一日迄ニ御送附相頻度  
 (和文タイプ)  
 (『文部省往復公文書綴 教務課』)

昭和二十一年二月二十七日起案

回答案

學校長

文部省學校教育局專門教育課長宛

學科課程ニ關スル件

昭和二十一年一月十七日付ヲ以テ御照會ノ標記ノ件別紙及御回答候

本科 東京音樂學校學科課程

學科目	邦 樂 科				聲 樂 科			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
學科目	二八〇	二八〇	八四〇	九〇〇	八四〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇
唱 歌	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	二八〇	二八〇	一四〇	一四〇
器 樂	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇				
能樂又ハ絃曲	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇				
音樂理論	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇				
音樂史	四二〇	四二〇	二八〇	一四〇	四二〇	四二〇	二八〇	一四〇
國 語	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
外 國 語	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
教 育	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
體 操	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇
增 課	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇
計	四三四〇	同上	四七六〇	四六八〇	三九〇〇	三九六〇	三六八〇	三五四〇

計	師範科											器樂科	作曲科
	増	體	教	外	國	音	音	能	器	唱	學		
課	操	育	國	語	語	樂	文	樂	樂	歌	科	目	目
四三〇	四二〇	四二〇	二八〇	四二〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第一學年	第一學年	
同上	四二〇	四二〇	二八〇	四二〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第二學年	第二學年	
四二〇	四二〇	四二〇	二八〇	四二〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第三學年	第三學年	
三五〇	四二〇	四二〇	二八〇	四二〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第四學年	第四學年	
三九二〇	四二〇	四二〇	二八〇	五六〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第一學年	第一學年	
三九二〇	四二〇	四二〇	二八〇	五六〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第二學年	第二學年	
三七八〇	四二〇	四二〇	二八〇	五六〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第三學年	第三學年	
三三四〇	四二〇	四二〇	二八〇	五六〇	四二〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	五六〇	第四學年	第四學年	

増	音	音	美	教	外	國	音	指	音	器	唱	學
課	聲	響	學	育	國	語	樂	揮	樂	樂	歌	科
目	學	學	學	語	語	史	法	論	論	論	目	目
四二〇		一四〇		二八〇	四二〇	四二〇		二八〇	五六〇	二八〇	第一學年	第一學年
四二〇				二八〇	四二〇	四二〇	一四〇	二八〇	七〇〇	二八〇	第二學年	第二學年
四二〇	一四〇			二八〇	四二〇	四二〇		二八〇	七〇〇	二八〇	第三學年	第三學年
四二〇			二八〇	二八〇	四二〇	四二〇		二八〇	五六〇	二八〇	第四學年	第四學年

計 三三二〇三三二〇三〇八〇二九四〇

(手書き)

(「文部省往復公文書綴 教務課」)

次は昭和二十一年二月九日付「發學六〇號」の冒頭および本校に関する部分である。

發學六〇號

昭和二十一年二月九日

文部省學校教育局長

各官立專門學校長 殿

昭和二十一年度官立專門學校入學者選抜ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ客年十一月二十八日附ヲ以テ通牒致シ置キタル處今般別紙ノ通昭和二十一年度高等專門學校入學者選抜要項、昭和二十一年官立專門學校入學募集定員並入學者選抜實施要項決定相成タルニ付テハ右御了知ノ上可然御措置相成度此段依命及通牒

昭和二十一年度官立專門學校入學者募集人員

昭和二十一年度ニ於テハ時局ニ鑑ミ學校學科ノ整備ヲ實施スル豫定ニ有之學校ニ依リテハ學科廢止又ハ改組、入學定員縮少或ハ學科新設、入學定員増加等ニ依リ入學定員ニ於テ移動アルベキニ付別表ニヨリ募集人員ヲ定ムルコト

(東京外事專門學校、大阪外事專門學校、東京美術學校に關する部分省略)

東京音楽學校

本科	八
聲樂科	八
器樂科	九
ピヤノ	九
オルガン	九
ヴィオリン	九
セロ	六
ダブルベース	六
管樂器	五
打樂器	五
作曲科	五
邦樂科	五
能樂	二
箏曲	四
長唄	四
師範科	三〇

備考  
外事、美術、音楽専門學校ニ於ケル入學者募集人員ニ付テハ總定員ノ範圍内ニ於テ科別募集人員ノ若干ノ變更ハ差支ナキコト

〔以下省略〕

〔和文タイプ〕

〔文部省往復公文書綴 教務課〕

昭和二十一年〜二十二年

規則・カリキュラムなどの改正は行われていない。授業、学校運営、教職員、生徒に関する資料を日付順に列挙する。

發學二〇一號

昭和二十一年四月二十五日

文部省學校教育局長 田中耕太郎印

直轄諸學校長

官公私立大學高等專門學校長 殿

外地及外國引揚學徒轉入學措置ニ關スル件

コノ件ニツイテハコレマデ度々本省カラ通牒シ各學校ノ御協力ヲ願ツテオルノデアルガ近來引揚學徒ノ數ガ漸次増加スルニシタガヒ設備人員等ノ關係デ學校ニ依ツテハソノ轉入學ガ非常ニ困難ニナツテ來テ居ルモノモアリ又幾分ナリトモ轉入學ガ出來ル學校モアルヤウナ實狀デアアル然シ引揚學徒ニハ眞ニ同情シナケレバナラヌト共ニ其ノ希望ヲカナヘテヤルヤウニ努メタイト思フノデ先ニ通牒シタ定員ノ一割ノウチデ現在受ケ入レノ餘裕ノアル人員又ハ定員ノ一割以上ニナツテモ收容可能ノ場合ハソノ收容可能ノ人員ヲ至急報告スル様御願スル

尙コノ收容可能數ノ調査ハ全面的ニ最モ正確ニソノ實相ヲ知り今後ノ引揚學徒ノ受入レ對策樹立ノタメノ資料トシタイト思フノデ各學校必ズ四月三十日現在ニ於ケル狀況ヲ左記様式ニ依ツテ速ニ御報告願ヒタイ。若シ一名ノ收容ヲモ不可能トスル様ナ事情ガアレバソノ實狀ヲ報告願ハシタイ又事情ニ依ツテハ係官出張ノ上御願モシ又ハ





高等師範學校等ニ關スル調査 (昭和二十二年五月一日現在)

(一) 師範科ニ關スル調査

一、生徒數

總計	音樂科		科別 學年別 男女別
	女	男	
	未ダ入學 セズ		第一學年
	未ダ入學 セズ		第二學年
六一	五九	二	第三學年
	三五	二三	第四學年
四三	三一	一二	計
一六二	一二五	三七	

二、外地及外國人生徒數

總計	音樂科		科別 學年別 男女別
	女	男	
	未ダ入學 セズ		第一學年
	未ダ入學 セズ		第二學年
	在學セズ		第三學年
一	一		第四學年
一	一		計

三、本年度入學狀況

本年度ハ入學試驗未濟ニツキ報告出來マセヌ

四、前年度半途退學者數

總計	音樂科		學年 事由 學年別
	女	男	
	疾病 懲戒 其ノ他		第一學年
一		一	(死亡)
	疾病 懲戒 其ノ他		第二學年
	(家事)		(死亡)
二		二	
	疾病 懲戒 其ノ他		第三學年
	疾病 懲戒 其ノ他		第四學年
二		二	(死亡)
	疾病 懲戒 其ノ他		計
五		五	其他

五、師範科擔任學科目及教授時數調

擔任學科目及時數	官職	氏名	備考
ピアノ	東京音樂學校教授	高折 宮次	
オルガン	〃	眞篠 俊雄	
ピアノ	〃	川上 きよ	
音樂史	〃	遠藤 宏	
ピアノ	〃	福井 直俊	
ピアノ	〃	宇佐美 ため	
唱歌	〃	木下 保	
音樂理論 指揮法	〃	橋本 國彦	
音樂理論 教授法	〃	下總 覺三	
ヴァイオリン	〃	井上 武雄	
ピアノ	〃	豊増 昇	
教育	〃	藤 謙敬	
唱歌	〃	淺野 千鶴子	
音樂理論	〃	細川 碧	
ピアノ	〃	永井 進	
ピアノ	〃	水谷 達夫	
ピアノ	東京音樂學校助教授	永田 晴	

セロ	二	〃	小澤 弘
ピアノ	一〇	〃	今井 治郎
指 揮	四二	〃	金子 登
ヴァイオリン	二	〃	免東 龍夫
ピアノ	一〇	〃	黒澤 愛子
ピアノ	一〇	〃	宮内 鎮代子
唱 歌	一四	〃	平原 壽恵子
ピアノ	一〇	〃	小田 雪江
ピアノ	一〇	〃	中村 ハマ
音楽理論	二	〃	平井 保喜
ヴァイオリン	二	〃	岩崎 吉三
唱 歌	一四	東京音楽学校 書記兼助教	酒井 弘
ピアノ	六	〃	外狩 伸一
トロンボーン	六	〃	山本 正人
音響學	二	東京音楽学校講師	颯田 琴次
音響學	一	〃	田邊 尙雄
ピアノ	六	〃	萩原 英一
ピアノ フリユート	二六	〃	貫名 美名彦
唱 歌	六	〃	長坂 好子
唱 歌	一〇	〃	田中 宣子

ピアノ	六	〃	田中規矩士
英語	四	〃	星谷 剛一
佛 語	二	〃	小松 清
體 操	二	東京音楽学校 教務囑託	天野 ちよう
唱 歌	六	〃	橋本 秀次

〔昭和二十一年度入試は二十一年五月八日から十五日にかけて行われた。この調査は五月一日現在のものであり、したがって実際には二十一年度の内容である〕

〔手書き〕〔文部省往復公文書綴 教務課〕

發學二九五號

昭和二十一年六月二十七日

文部省學校教育局長印

東京音楽學校長殿

學校活動の實態調査に關する件

日本教育制度に對する管理政策に基き貴校に於ても既に着々各般に亘り新教育を實施せられて居ることと考へますが之が最近の實情承知致したいと存じますので左記事項至急御調製の上來る七月十日までに御報告下さい

記

一、現在實施中の學科課程表

〔授業禁止科目の時數に付ては之を振當てたる科目及時數を明

示すること)

一、現在実施中の日課表

(始業終業の時刻、時限の終始時刻、作業時間等を明示すること)

一、学校内外に亘る教育施策にして最近実施せるもの及実施豫定のものあらば之が計畫大要

(特に校友會各部の活動狀況等明示すること)

一、其の他最近の學校活動狀況を察知するに足る資料

注意 學科別ある學校に付ては學科別、附屬校園ある學校に付ては夫々別表に作成すること

發學二九五號

昭和二十一年八月十五日

文部省學校教育局長印

東京音樂學校校長殿

學校活動の實態調査に關する件

昭和二十一年六月二十七日附發學二九五號照會標記の件貴校に於ては未だ御報告無く事務上支障がありますので至急折返し御報告下さい。

(和文タイプ)

(「文部省往復公文書綴 教務課」)

音教第一八六號 發送八月五日

昭和二十一年七月二十五日

文部省學校教育局長日高第四郎 殿

東京音樂學校長 小宮豐隆

學校活動實態調査ニ關スル件

發學二九五號ノ頭書ノ件ハ左記ノ通り回答致シマス

記

一、現在實施中ノ學科課程表

本科

學科別	學年	科別											
		邦樂科	聲樂科	器樂科	作曲科	音樂理論	音樂史	國語	外國語	教育	體操	音響學	音聲學
邦樂科	1	1	2	2	2	3	3	2	10	1	2	1	1
		2	2	2	3	3	2	10	1	2	2		
		2	2	2	3	2	2	10	1	2	3		
		2	2	2	3	1	2	10	1	2	4		
聲樂科	1	1	2	2	3	3	2	0	2	6	1	1	
		2	2	3	3	3	2	0	2	7	2		
		2	2	3	3	2	2	0	1	7	3		
		2	2	3	3	1	2	0	1	7	4		
器樂科	1	1	2	2	3	3	2	0	8	4	1	1	
		2	2	3	3	3	2	0	8	4	2		
		2	2	3	3	2	2	0	8	4	3		
		2	2	3	3	1	2	0	8	4	4		
作曲科	1	1	2	2	4	3	2	0	4	4	1	1	
		2	2	4	3	3	2	0	4	4	2		
		2	2	4	3	2	2	0	4	4	3		
		2	2	4	3	1	2	0	4	4	4		

師範科

學科別	學年別	唱	器	音	指	音	國	外	教	美	音	音	體
		歌	樂	樂	揮	樂	語	國	育	學	響	聲	操
	1	6	4	2	0	3	3	3	2		1		2
	2	6	5	2	1	3	3	2	2				2
	3	6	5	2	0	2	3	2	2			1	2
	4	6	4	2	0	1	3	2	2	2			2

一、現在實施中ノ日課表

始業豫鈴	八時
第一時限	八時一〇分 九時〇〇分
第二時限	九時一〇分 一〇時〇〇分
第三時限	一〇時一〇分 一一時〇〇分

第四時限

一一時一〇分  
一二時〇〇分

晝休憩

一三時〇〇分

第五時限

一三時一〇分  
一四時〇〇分

第六時限

一四時一〇分  
一五時〇〇分

第七時限

一五時一〇分  
一六時〇〇分

作業時間 ナシ

一、學校内外ニ亘ル教育施策特ニ校友會各部ノ活動狀況

東京音樂學校學友會各部ニテ實施セルモノ

1、演奏部

イ、校内演奏會ノ企画、開催

ロ、基金募集ノタメノ出張慰問演奏

——在外同胞引揚者援護

2、文化部

イ、音樂ニ關スル理論的研究ノ推進トソノ發表會ノ開催

ロ、校内與論調査

3、生活部

イ、生徒ノ共濟、食堂組合加入(校内食堂經營)

一、其ノ他學校活動狀況

ナシ

(文部省往復公文書綴 教務課)

(手書き)

發學三六八號

昭和二十一年八月十日

文部省學校教育局長 日高第四郎印

官公私立大學高等專門學校  
教員養成諸學校長 殿

學校數、生徒數、教師數等の調査に關する件

このことについては昨年十二月十七日附發學八五號で依頼しそれぞれ御調査を煩はしたがその結果は其の筋より相當不完全であることを指摘されたのでこゝに再調査することとした今回の調査は前回のそれと殆ど趣を異にしてゐるので左記注意事項熟讀の上九月十日迄に必着する様確實なる數字を報告されたい  
なほ記入上疑問の點があつたら直ちに照會せられたい (總務係と附記)

追つてこの通牒受領の際は左の様式の受領書を送付せられたい

(總務係と附記)

(記入上の注意事項省略)

(和文タイプ)

(文部省往復公文書綴 教務課)

音教第二一九號

廿一年九月一〇日

文部省學校教育局長日高第四郎宛

學 校 長

學校數、生徒數、教師數等の調査に關する件報告

昭和二十一年八月十日發學三六八號を以つて御照會の頭書の件別紙の通り報告いたします。

八月一日現在

學 徒		學 校		調 査 事 項		欄 番 號	記 入 欄
七〇%以上	全校舎ノ何%ガ確レタカ	一	學校名	一	東京音樂學校	一	
		二	學校種別	二	專門學校	二	
		三	官公私立ノ別	三	官 立	三	
		四	創立年月	四	明治二〇、一〇、四	四	
		五	所在地府縣名	五	東京 都	五	
		六	所在地都市名	六	下谷區上野	六	
		七	定 員	七	本科一六〇 師範科一二〇	七	
		八	通常收容シ得ベキ人員	八	在來校舍 在來ノ校舍外ノ建物	八	定員以外ノ割増以上ハ無理トナル
		九	本年度入學志願者	九		九	
		一〇	本年度入學者	一〇		一〇	
		一一	現在數	一一		一一	
		一二	計	一二		一二	
		一三	男	一三		一三	
		一四	女	一四		一四	
		一五	寄宿舎	一五	一一一名	一五	
		一六	下宿(親戚知人宅ヲ含ム)	一六		一六	
		一七	自宅	一七		一七	
		一八		一八		一八	%
		一九		一九		一九	

教師數	農耕地					教室	學級數	現二他ニ校舎ヲ求メテ授業中ノ場合					校舎使用状況					寄宿舎	校舎戰災部分ノ何%復興シタカ			校舎戰災ノ程度					
	昭和十六年四月現在	昭和十六年四月現在	昭和十六年四月現在	昭和十六年四月現在	昭和十六年四月現在			生徒ノ全員ガ移ツテキル場合	生徒ノ五〇人以上ガ移ツテキル場合	生徒ノ五〇名以上ガ移ツテキル場合	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	學徒ノ五〇%以上他ニ校舎ヲ求メテ授業中	有		無	通常收容シ得ベキ人員	全ク罹災セズ	二五%以下	七〇%—二五%				
明年四月ニ必要トサレ ル教師ノ推定概要	專任	兼任	專任	兼任	專任	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二〇		
	九六	五	六五	一〇	一四九	坪	坪	五〇	一〇	一〇									〇	〇	有(女子ノミ)	%					

教師ノ住	兼任	四六	二一
支障アルト感ズルモノ		四七	三三
支障ナシト感ズルモノ		四八	三七

備考

〔この表は「發學三六八號」とともに送付され、学校側は右端の記入欄のみに記入して回答している。なお、四五および四六の欄については、次に掲げる文部省からの再照会により、あとから書き加えられたものと見られる〕

〔文部省往復公文書綴 教務課〕

發學三六八號

昭和二十一年十月三十一日

文部省學校教育局長 日高第四郎印

東京音樂學校長 殿

學校數、生徒數、教師數等の調査に関する件

このことについては(又は八月十日附發學三六八號)で照會しそれぞれ御報告を煩はしたが左記の點について疑問がありますので折返し至急回答せられたい(總務係宛)

尙本調査は連合國軍最高司令部民間教育情報部調査課の慫慂に基くものであるから其の點お含み願いたい。

記

本調査表中第四十五、四十六欄未記入に付至急御回答下さい

〔記〕の後は手書き

昭和二十一年十一月十一日

文部省學校教育局長日高第四郎殿

東京音樂學校校長小宮豐隆

學校數、生徒數、教師數等の調査に關する件

昭和二十一年十月三十一日附發學三六八號を以て御照會の件本年八月十日附發學三六八號を折返し左記の通り回答申し上げます

御調査の表中

第四十五

第四十六の欄に當るものは有里ません

文部省より

再照會あり 專任96兼任21の回答をした

十一月十四日

(手書き) (文部省往復公文書綴 教務課)

昭和二十一年八月二十四日

文部省學校教育專門教育課長

專門學校長 殿

專門學校生徒調査について

標記の件について四月二十二日發專一八七號を以て調査方御依頼致しておきましたが未だに御校のみが届きませんので集計上甚だ迷惑して居りますから大至急調査の上送附願ひます (和文タイプ)

(文部省往復公文書綴 教務課)

發送九月一〇日

昭和二十一年八月三十一日起案

二十九年九月五日

學校長

文部省學校教育局專門教育課長宛

專門學校生徒調査について

發專一八七號で御照會の頭書の件別紙の通り回答いたします

第一表 入學志願者・入學者及現在生徒數調

東京音樂學校					名學校
合計	聽講生	研究科	師範科	本科	種別
○四六二 ○三九九	/	/	○一九二 ○一九〇	○二六二 ○二〇七	昭和二十年四月 入學志願者 受驗者 入學者
○三九七	/	/	○一九〇	○二六二 ○二〇七	昭和二十一年五月三十日現在生徒數
○一四八 ○一五	/	/	○五九 ○六三	○八五 ○五六	第一學年 第二學年 第三學年 第四學年
×一六七 ×四	○三〇 ○五〇	○二二 ○七七	○二七 ○三一	×〇二五 ×四	計
×一三三 ×四			○五八 ○六〇	×〇五七 ×四	昭和二十年九月卒業者數
×一三五 ×一			×〇三五 ×一	○七五 ○四〇	
×一〇 ×二			○三三 ○四三	×〇四二 ×二	
×四三〇 ×二八	○三〇 ○五〇	○二二 ○九七	×〇九一 ×一	○二六二 ×一〇	
○九三 ○二	○一四	○三三 ○三三	○二一 ○二六	○六八 ○四八	

第二表 卒業生 就職狀況調

名學校	學科	卒業生數	需要見込數	就職シタル者				就職セザル者
				官公署	銀行	自營	其ノ他	
本科	○六八 ○四八					○六八 ○四八	六八	



學部學科	學年	氏名	國別	卒業予定年月	就學狀況
本科聲樂科	四	高翔有	中國	昭和二年三月二五日	歸國
〃	四	譚氷若	中國	〃	〃
〃	三	薄一彬	中國	〃二三、三、二五	〃
〃	三	曲鴻書	中國	〃	歸國
〃	三	〇馬熙靜	中國	〃	〃
本科作曲科	三	王克智	中國	〃	〃
〃聲樂科	二	宮本英雄	朝鮮	〃二四、三、二五	〃
〃器樂科	二	松方正好	朝鮮	〃	〃
〃聲樂科	二	〇張淑絹	中國	〃	〃
〃師範科	三	〇蔡秀梅	中國	〃二三、三、二五	〃
〃聲樂科	一	〇王子薇	中國	〃二五、三、二五	〃
〃器樂科	一	除展坤	中國	〃	〃
〃	一	曾有道	中國	〃	〃
本科作曲科	一	陸仲兄	中國	〃	歸國

備考 ○印は女子

〔文部省往復公文書綴 教務課〕

〔手書き〕

昭和廿一年十月五日起案

文部省學校視察に關する件

來る十月十五日（火）文部省より諸井、デイビス兩氏來校、師範教育に關して視察竝に懇談をする豫定ですから左記の準備竝に方針を

説明いたします。

a、視察

一、聲樂、ピアノの授業

一、英語、理論の授業

（案内）教務課員

b、懇談

場所會議室

出席教官（順不同） 教務主任、各學科主任、北爪、中田、今井

（缺）、水谷、下總、片山諸教授、事務官

會計課

c、師範科廢止になつた時の音樂學校の教員養成に關する構成（別紙）

音樂教員養成に關する機構案

（城多私案）

一、師範科を廢し本科のみとする

一、入學資格を中等學校第三學年より連絡とする。

（早期教育の必要上これを主張する）

一、現在の本科を大學（四ヶ年）と豫科（三ヶ年）（假稱）に分ける。

一、豫科では音樂、音樂に關する學科目、中等學校上級に於て授業する學科目を適當に選擇して課す學年制とする。

一、大學では音樂、音樂に關する學科目を主とする。學科目は科目制度として學生に選擇させる。

音樂は學年制、教室制度とする。

一、大學に於て教育者を希望する者には左の學科目を課し、教員資格を附與する。

又卒業後研究科に在學してゐる者でも左の學科目を履修した者には教員の資格を附與する

一、教育學、心理學等教員として必要な學科目  
一、音樂教員としての資格になる學科目、例へば

聲樂、ピアノ、音樂教授法、音樂教授實際等

(註)現在の本科はこの線に沿つて授業してゐる。

一、本案の缺點はa、必ずしも一定數の資格者が得られない。

b、地方に就職希望者のない時は地方の學校は教

員入手難は免れない。

○十月十日の會議により承知済

(手書き)

(「文部省往復公文書綴 教務課」)

發學四六五號

昭和二十一年十月十五日

文部省學校教育局長 日高第四郎印

官公私立大學(總)長

官公私立高等專門學校長

學科課程等調査の件

今般聯合軍司令部から學科課程其他に就て別紙(英文)の通り要求があつたから左記記載例を参照の上調書(和文、英文各貳通)御作成の上十月三十日迄に本省所管課に必着する様御提出せられたい。

右通知する。

(記載例省略)

備考

調査期間を昭和二十年四月より同二十一年三月迄の一ヶ年とす。

注意

一、本調書は可成り「研究機關等の事業報告書」の用紙と寸法用  
ひタイプライターを使用すること。

二、司令部に提出の關係上期限前本省到着に疑ある場合は持參の  
こと。

(手書き)

Request for following:

Comparative table of curricula offering in Men and Women's Semmon Gakko.

1. Departments in which certificates or degrees are given. Under each department -

a. Required subjects in each year, & number of hours of each subject.

b. Elective subjects available for each year & number of hours allotted to them.

c. If graduate work is offered - above information also.

2. Number of alumnae.

3. Number in present student-body classes.

4. Number on faculty
    - a. Men - educational degrees.
    - b. Women - " "
  5. Library - approximate number of books.
  6. Laboratories - number and for what subject fields.
  7. Residences for students.
    - a. Number, number of students in each.
    - b. Food service - student self-service, or provided by college.
  8. Costs to students.
    - a. Tuition & fees.
    - b. Board & room.
  9. Financial cacking. [sic]
    - a. Endowment Fund, if private.
    - b. Government subsidy, if private.
    - c. Government subsidy, if public.
  10. Average salary of men faculty members.
  11. Average salary of women faculty members.
- Please be sure to give date of catalogue from which data are gathered, in case of each school.

LULLU HOLMES (LULLU)

1. 學科課程及教授時間數調 (高等專門學校の場合)

校名	學科名	必修科目名	選擇科目 隨意を含む	一年間總授業時數				備考
				第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
聲	樂			二二〇	二四五	二四五	二四五	

東京音楽学校

本科 作曲科	本科 器樂科										本科 聲樂科												
	國語	音樂史	音樂理論	器樂	唱歌	音聲學	音響學	體操	外國語	國語	音樂史	音樂理論	器樂	唱歌	音聲學	音響學	體操	外國語	國語	音樂史	音樂理論	器樂	
					教育									教育									
					七〇	三五	三五	七〇	一〇五	一〇五	七〇	二八〇	一四〇	七〇	三五	三五	七〇	一〇五	一〇五	七〇	七〇	二八〇	一四〇
					七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	二八〇	一四〇	七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	七〇	二八〇	一四〇
					七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	二八〇	一四〇	七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	七〇	二八〇	一四〇
					七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	二八〇	一四〇	七〇			七〇	一〇五	一〇五	七〇	七〇	二八〇	一四〇

東 京 音 樂 學 校

師範科										本邦科														
外語	國語	音聲學	音樂史	指揮法	音樂理論	器樂	唱歌	教育	音聲學	音響學	體操	外語	國語	音樂史	音樂理論	能樂又ハ絃樂	器樂	唱歌	教育	音聲學	音響學	體操	外語	
一〇五	一〇五		一〇五	〇	七〇	一四〇	二一〇	七〇	三五	三五	七〇	七〇	一〇五	一〇五	七〇	三五〇	三五	七〇	七〇	三五	三五	七〇	一四〇	
七〇	一〇五		一〇五	三五	七〇	一七五	二一〇	七〇		七〇	七〇	七〇	一〇五	一〇五	七〇	三五〇	三五	七〇	七〇			七〇	一四〇	
七〇	一〇五	三五	七〇	〇	七〇	一七五	二一〇	七〇		七〇	七〇	七〇	一〇五	七〇	七〇	三五〇	三五	七〇	七〇			七〇	一四〇	
七〇	一〇五		三五	〇	七〇	一四〇	二一〇	七〇		七〇	七〇	七〇	一〇五	三五	七〇	三五〇	三五	七〇	七〇			七〇	一四〇	

本科			學部
作曲科	器樂科	聲樂科	學科
△ 一一	〇 △ 二二二	〇 △ 一六九	第一學年
△ 三八	△ △ 二八九	△ 一三八	第二學年
〇 △ 一一五	△ △ 一九三	〇 △ 一一六	第三學年
四	△ △ 二七八	△ △ 一五一	第四學年
〇 △ 一五八	〇 △ 二六〇	〇 △ 四六四	計
			備考

3. 現在各學年別學生生徒數

計	師範科	本科				學部
		邦樂科	作曲科	器樂科	聲樂科	
一一三	六〇	六	二	三四	一一	一年平均卒業者數
						備考

2. 卒業者數調

體操	音響學	美學	教育
七〇	三五		七〇
七〇			七〇
七〇			七〇
七〇		七〇	七〇

計	師範科	邦樂科
		△一七〇
△三五七 〇三五	△三二九 △五三一	△一一八 △二二八
△一〇三 △七九	△五五三 △五五	△一六 △九
△七二 △二六 〇三四	△三五四 〇一四	△四三 △三三
△一〇六 △七三	△四三 △三一	△四四 △二八
△四二 〇六一	△一八六 〇四七	

4. 現在教職員數調

性別	學位を有するもの	學士	專門學校卒	中等學校卒	國民學校卒	檢定 其他	備考
計	〇	一三	六七	五	一七	〇	
女	〇	〇	二六	一	二	〇	
男	〇	一三	四一	四	一五	〇	

5. 圖書館及藏書調

- (イ) 圖書館數 一 延約 〇坪
- (ロ) 藏書數 一六、七五二部 約一六、七五二冊

6. 實驗室調

- (イ) 教授研究室數 〇室 延約〇坪
- 目的 〇
- (ロ) 學生生徒實驗室數 二七室 延約一〇三坪 (實技練習室ヲ掲グ)
- 目的 音樂實習ノ爲

7. 寄宿舎 (生徒宿泊処) 調

名稱	坪數	收容可能人員	食事(賄)の經營方法、自治、請負、學校經營ノ別	備考
東台寮	四九八坪八合三勺 (延坪數)	一〇〇名	學校經營	
計	七九〇坪九合一勺 (延坪數)	一〇〇名		

8. 學生生徒の經費年額調

種類	金額	備考
授業料	平均一人當 二四〇圓	但シ年額、本科生徒ノミ。師範科ヲ除ク
實驗費	一五〇圓	但シ月額
室代(寄宿舎ノ場合)	六圓	但シ月額
同(下宿ノ場合)	五〇圓	但シ月額
食費(寄宿舎ノ場合)	九五圓	但シ月額
同(下宿ノ場合)	四〇〇圓	但シ月額

9. 經濟的基礎ノ調

- C 官公立ノ場合
- (イ) 國庫補助金貳九四、七參〇圓 (最近ノ數ヶ年の平均年額)
- (ロ) 寄附金 〇圓 ( )

10. 男子教職員平均給料調

区分	教授	助教授	助手	講師	平均	備考
本俸	一、八七〇	一、二二〇		七九六	一、二六二	
手当(家族手当を除く)	四六五	一七二		〇	三二八	
家族手当	三三四	一七〇		〇	二四七	
計	二、六五九	一、四六二		七九六	一、八二七	

11. 女子教職員平均給料調

区分	教授	助教授	助手	講師	平均	備考
本俸	二、〇二三	九八七		一、二〇〇	一、四〇〇	
手当(家族手当を除く)	四八四	一〇九		〇	一九七	
家族手当	〇	〇		〇	〇	
計	二、四九七	一、〇九六		一、二〇〇	一、五九七	

一、一人平均手取を記載すること

二、調査期間を昭和二十年四月より同二十一年三月迄の一ヶ年とす

(手書※)

1. CURRICURA AND HOURS

Some of College	Department	Compulsory Subject	Elective Subject	Number of Hours for Each Year				Remarks
				1st year	2nd year	3rd year	4th year	
		Vocal Music		210	245	245	245	
		Instrumental Music		70	70	35	35	
		Theory of Music		70	70	70	70	
		History of Music		105	105	70	35	
	Vocal Music (Principal Course)	Japanese		105	105	105	105	
		Foreign Languages		105	105	105	105	

TOKYO ACADEMY OF MUSIC											
Instrumental Music (Principal Course)	Gymnastics		70	70	70	70					
	Acoustics		35								
	Phonetics		35								
	Singing	Pedagogy	70	70	70	70					
	Instrumental Music		140	140	140	140					
	Theory of Music		140	140	140	140					
	History of Music		70	70	70	70					
	Japanese		105	105	70	35					
	Foreign Languages		105	105	105	105					
	Gymnastics		70	70	70	70					
Composition (Principal Course)	Acoustics		35								
	Phonetics		35								
	Singing	Pedagogy	70	70	70	70					
	Instrumental Music		140	140	140	140					
	Theory of Music		140	140	140	140					
	History of Music		70	70	70	70					
	Japanese		105	105	105	105					
	Foreign Languages		104	104	104	104					
	Gymnastics		70	70	70	70					
	Acoustics		35								
Japanese Music (Principal Course)	Phonetics		35								
	Singing	Pedagogy	70	70	70	70					
	Instrumental Music		70	70	70	70					
	Nohgaku or Koto & Shamisen		35	35	35	35					
	Theory of Music		350	350	350	350					
	History of Music		70	70	70	70					
	Japanese		105	105	105	105					
	Foreign Languages		105	105	105	105					
	Gymnastics		150	70	70	70					
	Acoustics		70	70	70	70					
Vocal Music (Principal Course)	Phonetics		35								
	Pedagogy		70	70	70	70					

	Singing	210	210	210	210	210
	Instrumental Music	140	175	175	140	
	Theory of Music	70	70	70	70	
	Conducting	35	35			
	History of Music	105	105	70	35	
	Phonetics			35		
	Japanese	105	105	105	105	
	Foreign Languages	105	70	70	70	
	Pedagogy	70	70	70	70	
	Aesthetics				70	
	Acoustics	35				
	Gymnastics	70	70	70	70	
Normal Course						

2. Number of Alumni

Course	Department	Average Number of Alumni for Each Year	Remarks
Principal Course	Vocal Music	11	
	Instrumental Music	34	
	Composition	2	
	Japanese Music	6	
Normal Course		60	
		113	

3. Number in Present Student-body Classes

Course	Section	Number of Students				Total	Remarks
		1st year	2nd year	3rd year	4th year		
Vocal Music		9	18	16	21	64	
		△6 ○1	△13	△11 1	△15	△45 2	

Principal Course	Instrumental Music	21 △12 ○2	39 △28	32 △19	38 △27	130 △86 ○2
	Composition	1 △1	8 △3	5 △1 ○1	4	18 △5 ○1
	Japanese Music	10 △7	18 △12	16 △9	44 △28	
Normal Course		31 △29	55 △53	57 △34 ○1	43 △31	186 △147 ○1
		72 △55 ○3	138 △109	126 △74 ○3	106 △73	442 △311 ○6
Total						

4. Number of Faculty

Sex	Doctors	Masters	Semmon Gakko Alumni	Middle Grade School Alumni	Elementary School Alumni	Passers of Qualification Examination and Others
Men	0	13	41	4	15	0
Women	0	0	26	1	2	
Total	0	13	67	5	17	0

5. Library — Approximate Number of Books

- (a) Library ... 1.
- (b) Number of Books ... 16,751 vols.

6. Laboratories

- (a) Number of Laboratories for Professors ... None.
- (b) Number of Laboratories for Students ... 27.

For training in music.

7. Residences for Students

Name	Area	Number of Students	Food Service	Remarks
Total-ryo	c.1513㎡	100	Provided by College	
College	c.986㎡			
Total	c.2499㎡	100		

8. Costs to Students

Kinds	Sum	Remarks
Tuition	(each students) 240.00	Yearly. (Students of Principal Course only.)
Experiment Fee	150.00	Monthly.
Board	6.00	Monthly.
Room (Lodging)	50.00	Monthly.
Food Fee (College)	95.00	Monthly.
Food Fee (Lodging)	400.00	Monthly.

9. Financial Backing

C Public

- (a) Government Subsidy ... 294,730 yen  
(Yearly, average sum of these several years)
- (b) Endowment Fund ... None.

10. Average Salary of Men Faculty Members

Kinds	Professor	Assistant-Professor	Assistant	Lecturer	Average Sum	Remarks
Principal Salary	1870	1120	0	796	1262	

Allowance	465	172	0	0	318	
Family Allowance	324	172	0	0	247	
Total	2659	1462	0	796	1827	

11. Average Salary of Women Faculty Members

Kinds	Professor	Assistant-Professor	Assistant	Lecturer	Average Sum	Remarks
Principal Salary	2013	987	0	1200	1400	
Allowance (general)	484	109	0	0	197	
Family Allowance	0	0	0	0	0	
Total	2497	1096	0	1200	1597	

〔手書宛〕(『文部省往復公文書綴 教務課』)

次の文書は、昭和二十一年度の授業方法と、二十二年度の教科書所要数調べである。

シタヤ	
リム六〇シバ	一一三三 五三
ウノコウエン	
トウケウランガ	クガ ツコウテウ
一ツキ二五ヒツケハツガ	ク五四六ゴ ウシヨウキヨウカシヨチ
ヨウサホンツキ	一六ヒマダ ニホウコクネガ ヒタイモンフ セウ
送 時 分	者信送 者校照 信 受 コハ
納刷印子王	院 信 遞 號四第信

〔電報には「下谷21・12・12」の消印がある〕

音教第 號 發送一月九日

昭和二十一年十二月十七日起案

回 答 案

學 校 長

文部省學校教育局長宛

昭和二十一年十一月二十五日發學五四六號を以て御照會の標記の件は別紙の通り回答申し上げます

記

- 一、昭和二十一年度授業方法及教科書を使用しない場合は其の理由
- 1、教科書に依る科目（國語、英語、佛語、伊語、獨語）
- 2、筆記に依る科目（音樂理論、指揮法、音樂史、國語、外國語、教育、音響學、音聲學）

二、昭和二十二年度に於ける教科書所要數調

科目別	教科書名	編纂者	發行所	教科書所要數		價格の冊	必要の冊數	昭和二十一年度入學状況
				年の使用	科の使用			
國語 板書又は プリント 使用	徒然草			一年	聲樂	一冊	一冊	一〇
	正法眼藏			二年	作曲	二冊	二冊	二〇
	文學史論	諸藤		三年	邦樂	一冊	一冊	一〇
	現代文學批評	諸藤		四年	節範	一冊	一冊	一〇

獨語	佛語	英語	
		初等	中等
初等ドイツ文典 冬の旅	速修佛蘭西語	1. The Elementary English Reader 2. The Sketch Book by Washington Irving	1. The Private Papers of Henry Ryecroft by George Gissing 2. Tales from Shakespeare by Charles Lamb
山岸光宜	田島清	森	研究社
初級	初級	三省堂	研究社
師邦作聲	師邦作聲	師邦作聲	師邦作聲
八〇	一三〇	六二	六九
	六〇圓五〇	二圓五〇	二圓五〇
教官の 斡旋	教官の 斡旋	教官の 斡旋	

〔原資料には教科書所要數の項に「學校書店又は當該地方の書店のストック數」と「所要冊數」の欄があるが、すべて空欄。紙面の都合により省略した〕

〔手書き〕〔文部省往復公文書綴 教務課〕

發調四號

昭和二十一年十二月十六日

官公私立大學高等專門學校校長  
教員養成諸學校校長 殿

學校表の調査差出のこと

文 部 次 官 印



〔様式省略〕

音庶第一二三號

昭和二十二年六月三十日

文部省學校教育局長宛

學校一覽表送附

昭和二十二年一覽表、別紙二通、同封にて提出致します

學校一覽表

東京音樂學校

〔手書き〕

學校長

昭和二十二年六月十日

文部省學校教育局專門教育課

專門學校長 殿

名稱	東京音樂學校	科	本	學科	器樂科、邦樂科、作曲科	修業年限	四年	入學定員	四〇名	校長	小宮豐隆	創立年月	明治十二年十月	所在地	台東區上野公園	備考	下谷(3)二、七五六番 下谷(3)一、九八〇〃 下谷(3)〇、六一一〃
研究	師範	研究	研究	研究	研究	二年	若千	若千	若千	若千	若千	二年	若千	若千	若千	若千	若千
聽講	聽講	聽講	聽講	聽講	聽講	三年乃至五年	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名						
選	選	選	選	選	選	三年乃至五年	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名	約一八〇名						

〔手書き〕〔統計調査〕

學校臺帳作製について

標記の件について別紙様式により作製の上至急當課に御送附方御願  
いします(六月末日必着のこと)

尙墨ペン書にて御記入願います

〔様式省略〕

〔手書き〕

名稱	東京音樂學校	設立者	文部省直轄	位置	台東區上野公園地、元西四軒寺跡、公園西北隅、圖書館裏	沿革	開校年月日明治十二年十月日 本校八明治十二年十月創 掛ラ置カレシニ濫觴シ其 メテ文部省内ニ音樂取調 ノ後、明治二十年十月四 日敕令第五十一號ヲ以テ 音樂取調掛ラ改メテ東京 音樂學校トセラレ同二十 六年九月十一日高等師範 學校ニ附屬セシメラレテ 高等師範學校附屬音樂學 校ト改編シ更ニ同三十二 年四月四日敕令第百十六 號ヲ以テ東京音樂學校ト 改編セラレ以テ今日ニ至 ル						
校地	面積三八五七坪六五 延坪一、五九坪〇五二	運動場五二九坪〇〇	延坪一、五九坪〇五二	本館木造二階建一部平家 一室	備考	現在本科ニハ 聲樂科、器樂科(ピアノ、オルガン、ヴィオリン、セロ、管樂器其ノ他)、作曲科、及ビ邦樂科ガアル							
校舎	普通教室 音樂教室	一三三室 奏樂室	七三三室	寄宿舍	收容人員一〇二名	舍費年額一五〇円	賄料雜費共月額三五〇円						
學科	中、高女 三修以上	四ヶ年	四〇名	入學資格	三修以上	修業年限	四ヶ年	生徒定員	四〇名	授業料	年額四百圓	入學檢定料 及入學料	檢定料五拾五圓 入學料二拾五圓
本	同	同	三〇名	師範科	同	同	同	同	同	年額 四百圓	同	同	同
研究	同	同	同	研究科	同	同	同	同	同	年額 四百圓	同	同	同
聽講	同	同	同	聽講科	同	同	同	同	同	年額 四百圓	同	同	同
選	同	同	同	選科	同	同	同	同	同	年額 四百圓	同	同	同

〔手書き〕〔統計調査〕

昭和二十二年六月三十日

文部省學校教育局長 日高第四郎印

官公私立大學高等專門學校長

教員養成諸學校長

都道府縣知事

殿

語學に關する調査について

このことについては、左記様式に従い、七月十五日までに、調査報告されたい。

記

調査様式

教員數	昭和十四年四月現在		昭和二十二年四月現在		生徒數
	専任	兼任	専任	兼任	

(和文タイプ)

音庶第一五一號

昭和二十二年七月十五日

學校教育局長宛

學校長

語學に關する調査について

六月三十日附發學二七二號に依り請求のありました語學に關する調査を提出致します。

科目	員數				生徒數
	昭和十四年四月現在	昭和二十二年四月現在	昭和十四年四月現在	昭和二十二年四月現在	
英語	二名	二名	一名	一四三名	三四六名
ドイツ語	一名	一名	一名	一一九名	二〇八名
フランス語			一名	九〇名	
ロシア語			一名	一九名	
イタリア語			一名	二九名	
計	三名	三名	一名	二六二名	六九二名

備考 昭和二十二年度は、英語は必修科目で他は選擇である。

(手書き)

(統計調査)

昭和二十三年〜二十四年

六月、検定料、授業料などに関する最後の学則改正が行われた。改正資料を掲げる。

また十月には「創立七十年記念祭」が行われたが、これについては別項で掲げる。

直學二八號 裁決定7月2日 發送7月5日

昭和二十三年六月三日起案

指令案

東京音樂學校

昭和二十三年六月二日付音會第一九四號をもって申請の東京音樂學校學則中改正のことは、これを許可する。

昭和 年 月 日

文部大臣

備考

- 一、檢定料、入學料、授業料の改正である（本科、選科共）
- 二、聴講生の授業料の改正
- 三、寄宿料の改正
- 四、樂器使用規則の改正
- 五、奏樂堂及能樂堂貸付規則の改正

等の改正である。

音會第一九四號

昭和二十三年六月二日

東京音樂學校長 小宮 豊 隆印

文部大臣 森 戸 辰 男 殿

授業料等改正の件

五月二十日付發會七七號にて御通知の授業料等増額の件は御指示の通り實施いたしますが、之に伴ひ他の諸規則の改正を必要としますから、別紙改正案添付の上報告を兼ね認可申請致します。

改正諸規則

- 一、學 則
  - (昭和二十三年四月一日より施行、但し檢定料については同年二月一日より施行)
- 二、聴講生規程
  - (昭和二十三年四月一日より施行)
- 三、寄宿舎規則
  - ( )
- 四、樂器使用規則
  - ( )

五、選科規程

六、奏樂堂及能樂堂貸付規則（昭和二十三年 月 日より施行）

（昭和二十三年四月一日より施行、但し檢定料については同年第二學期分より施行）

改正案

學則中左の通改正す。

第二十六條中「金五拾圓」を「金百圓」に改む

第二十八條中「金貳拾五圓」を「金百圓」に改む

第四十三條中授業料を左の通改む

改正要點

檢定料發會七七號による。  
入學料發會七七號による。

區 分	年 額	分 納 額	
		一 期	二 期
本 科	金千貳百圓	金六百圓	金六百圓
研 究 科	金七百貳拾圓	金參百六拾圓	金參百六拾圓

第四十七條中「金參拾參圓五拾錢」を「金百圓」に、「金貳拾圓」を「金六拾圓」に改む

聴講生規程中左の通改正す。

第四條中授業料を左の通改む

區 分	年 額	分 納 額		
		第一學期	第二學期	第三學期
一科目に付	金七百貳拾圓	金參百圓	金貳百四拾圓	金百八拾圓

寄宿舎規則中左の通改正す

第八條中寄宿料を左の通改む

本科は發會七七號による。  
研究科は年額二四〇圓の三倍、本科、研究科月割額の改正である。

年額二四〇圓の三倍とする。  
聴講生は毎學期の始めに入學せしめるため學期毎に徴收する。

發會七七號による。

年額	分納額	
	一期	二期
金參百圓	金百五拾圓	金百五拾圓

第九條中「金拾貳圓五拾錢」を「金貳拾五圓」に改む

樂器使用規則中左の通改正す。

第五條中使用料を左の通改む。

種別	年額	分納額	
		一期	二期
ピアノ	金參百六拾圓	金百八拾圓	金百八拾圓
パイプオルガン	金七百貳拾圓	金參百六拾圓	金參百六拾圓
オルガン	金參百六拾圓	金百八拾圓	金百八拾圓
バイオリン 但し絃なし	金四百五拾圓	金貳拾五圓	金貳拾五圓
セシ絃なし	金六百九拾圓	金參百四拾五圓	金參百四拾五圓

奏樂堂及能樂堂貸付規則中左の通改正す。

第三條中使用料を左の通改む。

區分	晝間一回に付	夜間一回に付	晝夜間一回に付				
				能樂堂	奏樂堂	階上	階下
能樂堂	金千圓	金千五百圓	金貳千圓				
階上	金五百圓	金八百圓	金千圓				
階下	金參三百圓	金五百圓	金七百圓				
附屬物品							
ピアノ	一臺	一回に付	金五百圓				
パイプオルガン	一〃	〃	金七百圓				
能舞台	一組	〃	金五百圓				

月割額の改正である。

年額二二〇圓の三倍とする。  
 〃 二四〇圓 〃  
 〃 六〇圓をピアノと同額とする。  
 〃 一五〇圓の三倍とする。  
 〃 二三〇圓 〃

従來使用料	晝			夜			晝夜		
	晝	夜	晝夜	晝	夜	晝夜	晝	夜	晝夜
	二〇圓	一〇圓	一〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓
従來使用料	二〇圓	一〇圓	一〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓	二〇圓	一〇圓	一〇圓

金屏風 一雙 〃 金百五拾圓

選科規程中左の通改正す。

第九條中「金貳拾五圓」を「金五拾圓」に改む。

第十條中「金拾五圓」を「金五拾圓」に改む。  
 第十九條中授業料を左の通改む。

區分	年額	分納額		
		第一學期	第二學期	第三學期
一學科目に付	金六百圓	金貳百圓	金貳百圓	金貳百圓
能樂、箏曲又は長唄中の二學科目を併修する者	金七百圓	金貳百圓	金貳百圓	金貳百圓
能樂中の三學科目を併修する者	金九百圓	金四百圓	金四百圓	金四百圓
能樂中の四學科目を併修する者	金千圓	金四百圓	金四百圓	金四百圓
同	八拾圓	六拾圓	六拾圓	七拾圓

第二十二條中別表を左の通改む。

區分	分	月割額
一學科目に付		金五拾圓
能樂、箏曲又は長唄中の二學科目を併修する者		金六拾五圓
能樂中の三學科目を併修する者		金八拾圓
同		金九拾圓
四學科目を併修する者		金九拾圓

以上

(「自大正十四年三月至昭和二十三年七月 東京音樂學校規則 第二册」)

(「手書き」)

五〇圓

檢定料 二倍とする。

入學料 三・三倍とする。

選科は毎學期の始めに入學せしめるため學期毎に徴收する。  
 年額二四〇圓の二・五倍とする。  
 〃 三五〇圓の二・二倍とする。  
 〃 五六〇圓の一・七倍とする。  
 〃 六四〇圓の一・六八倍とする。

月割額の改正である。